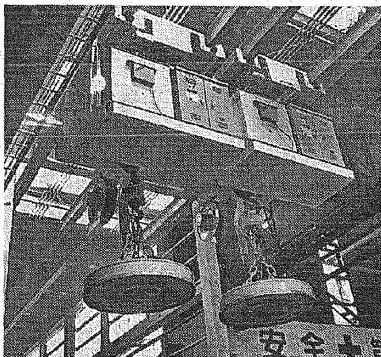


2010年(平成22年)4月8日(木曜日)



鑄物の材料

工場内設備メーカーの三明機工（静岡市、久保田和雄社長）は鋳造の前工程を大幅に短縮できる材料集荷システムを開発した。鋳物材料となる鉄スクラップなどの集荷、計量、運搬の各工程を一括してこなすシステムで、設置費用を半減できるという。月内にも販売を始める。鋳物は海外製の安価な製品が出回り、基盤技術として国内に残すには作業効率改善が課題だ。鋳物を内製する自動車部品メーカーなどに売り込む。

集荷・計量・運搬 一括で

設置費用を半減

も省くことができる。

開発した「リフマグ自動計量システム」は、天井クレーンに取り付けた大型磁石を使い、鉄スクリップや銹鉄などをつり上げて所定の位置に運ぶ。従来は別々の装置が必要だった集荷、計量、運搬の3つの工程をまと

三明機工が新システム

磁石でつり上げた鉄くずなどの重量を測定、電気炉への投入量を調整できる

ら追加投入する調整工程

月内にも販売を本格化する。自動車関連など量産品を製造する規模の大きな鋳物工場で需要があるとみる。年間1システム

3基のクレーンを同時に動かして作業効率を上げることも可能だ。

レーヴーを工場の壁などにあてることで、クレンの位置を調整。従来の材料置き場や天井クレーンはそのまま使えるため、大がかりな工事の必要なく、工場を拡張し

もとよりがでま。

ムほどの販売を目指す。
価格は工場の広さなどによって異なるが、4つの
材料置き場があり、3基のクレーンで2つの台車に運ぶ場合で7000万
円1億円ほどになる。

三明機工はファクトリーオートメーション（FA）機器に強く、09年3月期の売上高は約30億円。ロボットアームを使つた材料・製品の自動運搬システムに強みを持つ。